

特定非営利活動法人 日本ファシリテーション協会

2023 年度通常総会 補足資料

■ 通常総会タイムテーブル（あくまでも目安です。状況により変更となります）

時刻	時間	内容
14:00～14:20	20分	定足数確認、開会、議長・議事録署名人選出、趣旨説明、役員紹介
14:20～15:20	60分	第一号議案 2022 年度事業報告並びに決算及び監査報告について
15:20～16:05	45分	第二号議案 2023 年度事業計画並びに予算について
16:05～16:15	10分	第三号議案 2023 年度役員を選任について
16:15～16:30	15分	その他報告、質疑応答・意見交換、閉会

■ 「総会議事資料に関する意見交換会」ご報告（Q&A 集）

全国 6 地区およびオンライン 1 回の計 7 回開催した「総会議事資料に関する意見交換会」での質疑応答を以下の通りまとめました。

1. ミッション、ビジョン、その他活動全般について

1) 20 周年とはいつからいつまでを指しますか？

→ 今年の 8 月から一年間を対象としています。

2) 20 周年で行われる活動に対して、一般会員が関わる機会はありますか？

→ 各拠点の活動の中で 20 周年に関連するものが出てくると期待していますので、その活動にぜひ関わって欲しいです。また、ご自身でイベントを発案・主導いただくこともできます。運営メンバー、一般会員に関わらず、皆で 20 周年を祝っていきましょう。

3) 20 周年での事業の中で、社会的貢献の側面はどれほどありますか？

→ 例えば、災害復興委員会での通常年度では実施できない取り組み(実践者養成、被災地訪問・視察、拠点人材発掘、事前復興計画勉強会など)や、小学校に直接ファシリテーションを届ける出前授業、我々の事業の受益者の声を取りあげる小冊子など、20 周年事業の中にも社会的貢献の側面が多くあります。

4) 小冊子は販売することができるが、ロゴマークは売れません。ロゴマークの更新にお金をかける根拠は何ですか？

→ 小冊子は売り物ではありません。ロゴについては、変化の象徴として一番わかりやすいものなので計画に含めています。人の気持ちや盛り上げをお金で買うことはできないので判断しづらいことも認識しています。スタッフ会議を経て、本当に機運が盛り上がったならロゴを変更することを検討します（変えない選択肢もあります）。

5) 出前授業とは何ですか？どんなところに予算が必要なのですか？

→ 小学校の教室にファシリテーションを届ける企画です。現在 10 名ほどの準備室メンバーで提供するプログラムを検討しています。費用面（旅費交通費、謝礼など）は、既存のファシリテーションサポートやセミナーなどとのバランスを考えて規定する予定で、継続可能性が見込められるなら、事業区分上、教育・普及事業と捉えて推進していきたいと考えています。

6) 社会から見た FAJ の存在意義を理事はどのように考えているのか教えてください。

→ ファシリテーションを探究・研鑽したい人が継続的に活動できる場が全国に存在していること、ビジネス、教育、街づくりなど、多様なマインド・スキル・場をおおらかに許容してファシリテーションの本質を深めることができる場であること、などが社会から見た FAJ の存在意義だと考えています。ファシリテーションマインド・スキルを備えた会員が各々の現場で活躍すること、また教育普及/支援助言事業などを通じて FAJ として直接的にファシリテーションを届けることなど、FAJ だからこそできる社会貢献を継続していきたいと考えています。

7) 会員が現場に立つとはどういう意味ですか？「定例会」でのファシリテーターとしての活動を指すのですか？FAJ 以外の場での活躍を想定しているのですか？

→ 「現場」は定例会ではなく、会員それぞれの目の前の課題を解決するための場や、FAJ の活動の中で社会と向き合う場を想定しています。定例会にはそれらの場に向けての研鑽の場としての役割もあると考えており、昨今外部からの話題提供者が増える傾向にはありますが、会員自身が積極的に活用してほしいと思います。

8) FAJ の HP 上の動画について、アイスブレイクの他に、特定の個人の名前で動画が公開されていますが、どこの管轄での活動なのか、どのような理由なのか（FAJ は個人の取り組みに受け取られることを NG としてきたはずでは？）を教えてください。

→ ご質問頂いた特定の個人動画やアイスブレイク動画に関しては、広報委員会において、FAJ 運用規定の第 2 章第 6 条（NPO 精神の尊重）、同第 11 条（誤認行為の禁止）に則り作成を進めておりますが、一部誤解を与えたという点については真摯に受け止め、今後は誤認されることのないように考えていきます。

9) ビジョン 4.0 について、以下の指摘と質問があります。

- 1 ビジョン 4.0 の文面では、「誰が」「どこが」が分からない。
- 2 作った人の想いはあるのだろうが、「違うとちがう」の違いが分からない。
- 3 ミッション→ビジョン→バリューとある中で、FAJ のビジョンはどこにあたるものか。
- 4 社会の中で、FAJ がどうあるべきかが入っていないのではないか。
現状のものだと、自分たちが楽しいことしか書いてないように感じる。

→ FAJ はネットワーク組織であり、ファシリテーターとしての持ち場や考え方など多様な会員がおり、FAJ の活動についても、委員会や支部、サロンなど様々な関わり方があります。策定したビジョン 4.0 はあえて抽象度を上げることで、会員それぞれが自分ごととして考えられるものとなりました。今年度の活動で、更なるビジョンの進化と深化を行なっていきます。ビジョンチームにご質問の内容は伝えます。ビジョン 4.0 に込められた意図が伝わるよう動画も作成し、メールにてお知らせしておりますが、今後 FAJ のホームページから動画にアクセスできるように検討していきます。

10) ミッション、ビジョン、その他活動全般について「学びほぐす」という説明があったが、意味を教えてください。

→ 学びほぐし＝アンラーニング（unlearning）価値観や知識を見直しながら取捨選択し、その代わりに新しいものを取り込むことを指します。現状に合わせて学びを修正することで、すべて捨てるわけではありません。

2. 調査・研究事業について

該当する質問はなし。

3. 教育・普及事業について

該当する質問はなし。

4. 支援・助言事業について

11) ファシリテーションサポート委員会の事業報告の中にある「FAJ ならではの」とは何を表していますか？

→ ファシリテーションサポート委員会では、FAJ のミッションに照らして支援するに値するかを判断しています。(研修業務の受託や報酬が目的ではありません。) また支援内容も、研修やワークショップの案件実施だけでなく、依頼主とのヒアリング(よろず相談)でお困り事に耳を傾け、ファシリテーションがどのように依頼先の課題解決につながるかをコーディネーターと一緒に考えます。この支援先決定と、支援を行うプロセスが「FAJ ならではの」と考えています。

12) 支援事業は収入が伸びていますが、その理由を教えてください。

→ FAJ のミッションに沿い、かつ収益性のある案件が受注できました。収益性だけで受注案件を決めておらず、収益性が高くても FAJ のミッションに照らし合わせて、お断りしている案件も多くあります。

5. 交流・親睦事業について

13) 2025 年の万博、コラボレーションの内容は具体的に決まっていますか？

→ TEAM EXPO 2025 の共創パートナーとしての活動はこれから具体化していきます。ご興味があれば、ぜひご参加ください。

6. 組織運営に関わる活動について

14) 新任役員候補は今年度、20 周年事業など、活動量が増える予定を担うだけの時間的リソースはありますか？

→ FAJ の活動は理事だけが行うものではありません。計画中の活動についても理事だけでなく会員が主体的に動こうとしているものもあります。ぜひ皆様にも協力して欲しいと思っています。また理事候補になった方については、毎月の理事会参加及びその他の活動に関する時間的リソースの確保について了解を得ています。

15) 今年度は予算をしっかりと使っていく一年と理解しました。しかし、会員数の減少も見えていなかで、それ以降のことを考えると、収入増の対策が必要なのではないでしょうか？

→ NPO 法人として収入を増やすことが目的ではなく、ファシリテーションの普及が目的となり、その活動を維持できる収支体系にすることが大切だと考えています。活動を維持するために収入を増やすべきか、支出を減らすべきか、収入を増やすとしてもどの手段が適切か、2023 年度で検討していきます。

16) 20 年を経て、4 つの事業の定義と各支部の活動が合わないことなどが出てきています。調査・研究事業の趣旨であるファシリテーション技術の確立や新しい技術の開発につながる定例会の数が少ない一方で、支援・助言/交流・親睦の趣旨に近い外部との協働を拠点で行うことも推奨されています。各支部の活動内容を見直すことも、組織改革の検討範囲に入るのでしょうか？

→ 各支部・拠点の活動内容の再定義を実際に行うかはこれからの分析次第ですが、組織改革の検討範囲には入ると考えています。

17) 運営と組織のありかたの検討とあるが、どんなことを検討されるのでしょうか？

→ FAJ がファシリテーターズ・ターミナルとしてありつづけるために、今の組織構造を考え直す活動として、以下のようなものを考えています。ビジョン 4.0 の浸透プロセス、変化の象徴としてロゴ変更の検討、外部ファシリテーターの支援も受けての組織構造の見直し及び収支構造の悪化への対策の検討です。「拡大理事会」「スタッフ会議」などのコミュニケーションの場での共有を考えています。

18) 今回、沖縄から 2 名理事候補が入っています。以前、地域枠があったと思いますが、運用が変わったのでしょうか。理事の選出された経緯を説明してください。

→ 運営規程にもあるように、推薦結果を踏まえ多くの推薦を受けた人の中から、地域、活動分野、性別などのバランスも踏まえて選出をしています。地域枠のような運用は過去から行われてはいなかったと認識しています。

19) 会員減少の背景を教えてください。

→ 退会手続きをされた方が残された理由の多くは「定例会などに参加できないから」となっています。なお、2013 年以降入退会者数はともに減少しており、2015 年以降は退会者数が入会者数を 100 名ほど上回る状況が続いています。

20) 会員の年齢、会員歴などの資料はありますか？

→ 入会年の情報はありますが、年齢は収集していません。

21) 各地域のメンバー情報を共有いただけないでしょうか？個別に定例会でアナウンスするなど、会員継続のための手が打てるのではないかと思います。

→ 個人情報の管理運用の問題があるため、共有はしていません。そのため、案内を希望する方には、地域 ML への登録をアナウンスすることで地域の情報を取れるようにしています。会員のニーズにあったコミュニケーションの方法は今後も検討していきたいと考えます。

22) 個人事業主としての業務を FAJ 会員に協力を依頼してよいのでしょうか？

→ FAJ として会員に個人事業への協力を依頼することはしていません。ただし、個人的なつながりで協力を求めるのは、FAJ の関知するところではございません。

23) FAJ を名乗って市役所に売り込みにいってもよいのでしょうか？

→ 定款上禁止されています。

7. 決算、予算について

24) 昨年から急に赤字になった理由はなんですか？

→ 2020 年・2021 年は赤字予算・黒字決算となっていました。収入・支出ともに予算からの乖離が大きく、特に支出の予算消化率が低く黒字となっていました。一方で、昨年は収入・支出とも予算比の乖離が小さくなり、結果として赤字決算となりました。現在の収支バランスを適切に把握するために 2019 年との比較も交えて説明します。

- 【収入の観点】 会員収入の観点では、会員数の減少が進んでおり、2019 年との比較では、75%程度となっています。事業収入の観点では、教育普及事業による収入が 2019 年と比べると 65%に留まっています。
- 【支出の観点】 管理費は増大しました。拡大理事会の参加をサロン世話人まで含めたこと、理事に多くの拠点に関わりを持つように促した結果と考えられます。また、会計や会員管理、web サイトに関する業務を外注したことによる増加が上げられます。
この傾向は今後も続くと予想しており、2023 年の喫緊の課題として収支バランスの適正化を検討していきます。

25) 20 周年記念事業の予算の詳細を教えてください。

- 20 周年記念事業費として計上しているものは、小冊子作製、ビジョンワーク、出前授業です。また、管理費内の組織改革、スタッフ会議、ロゴ制作もそれにあたります。各拠点で計上しているものとしては、広報委員会での Web 掲載用動画作成、災害復興委員会での通常年度では実施できない取り組み(実践者養成、被災地訪問・視察、拠点人材発掘、事前復興計画勉強会など)があります。

26) 予算を中期的に考えることはしないのですか？

- 今年度は、コロナ禍以前からの収支バランス変化やコロナ禍で大きくなった予実乖離の問題を見直します。中期的な視点も取り入れることを検討したいと考えています。

27) この赤字予算で本当によいのですか？

- FAJ20 周年を機会にコロナ後に向けた活動を模索し、推し進めるために今年度限定の大幅な赤字予算としました。内部留保額を踏まえると、この赤字額は許容範囲内と考えていますが、次年度以降の収支構造見直しは不可欠です。

28) 20 周年記念事業予算に関して、各項目の数値が意外と大きいと感じており、多めに予算計上し決算で抑えるのは予実管理の視点で適切ですか？

- 現時点では、それぞれ適切な金額と考えています。予算の執行に当たっては企画提案書、経費見積書を提出していただき、内容、金額の妥当性を再度確認した上で理事会承認を行うことになっており、適正な支出となるよう進めています。

29) 赤字予算に驚いています。ファシサポだけではなく、色々な人が関わることや、できる人が増えてくると収入は増加するのではないのでしょうか。

- 収支バランス改善のためには収益を増やすための活動も重要ですが、ファシサポを「収益」の手段とし拡大を目指すというのは本来の趣旨ではないと考えています。NPO 法人の活動としてファシリテーションが必要とされるところに届けることを優先させています。

8. その他

意見交換会の中で、以下のようなご意見をいただきましたので、ご紹介いたします。

- ・ 当初の予算要求からだいぶ削られたなという印象があります。
- ・ 活動計画と予算を読み込みたい。各事業の予実管理が掴みにくかったです。
- ・ FAJ 全体も、支部運営も活動量の多い人が要職に就いて、負担が大きいと言いながら十分に活動ができていないように見えることがあります。一般の会員はファシサポや災害復興の活動を知らないという理由で関われないことも多い。ある種の格差があるように感じる。もっと会員がたくさん参

加できるような仕組みを検討してほしいです。

- ・ 議事録配信遅れの謝罪、抽象的なビジョン、予算赤字の計上など、理想と現実のギャップや、止める活動が出てきている状況になっているのはなぜだろうかと感じます。
- ・ FAJ は理事も拠点運営もボランティアで活動しており、限界があり、あきらめることも必要ではないでしょうか。
- ・ 目指すべきものがあるが、限界もあり、そのギャップで悩んでいるのではないのでしょうか。
- ・ 支部（拠点）同士の連携の仕組み化を考えたらどうでしょうか。自分でも考えてみたいと思います。
- ・ ファシリテーターズ・ターミナルと言う表現について、各地域の自発的な取り組みが共有できると、アクセスし、自発的な交流の仕組みにつながるのではないかと思います。
- ・ 役員や、委員、事務局の負担が気になります。お金をかけるにはかけてほしいし、もっと仕組みを考えていかないといけないと感じています。Website の更新などは外部委託することも良いのではないかと思います。
- ・ 第三号議案の理事候補が名前しか書いておらず、どういった方かわかりません。どういった方が何をしていたか示してほしいです。また、理事のスキルマトリックスを作成してはどうでしょうか。
- ・ 組織改革や組織構造を変えるなどの言葉があるが、目指す方向性や時期、何がどのように変わるのか、本当に変えられるのか？永続的な運営ができるのか？など気になりました。
- ・ 理事はがんばっていますが、会員にそれが伝わりきれてないように思います。
- ・ 議論はするが、最終的にどうなったかのアクションが見えません。
- ・ 事務局機能の強化の必要性があるのではないのでしょうか。以前は事務局でアジェンダをまとめて理事会に提案していました。理事会の負荷が大きいため、できるだけ話し合いに注力できるようにする方がよいと思います。
- ・ 教育普及事業の拡大にもっと尽力してほしいです。
- ・ 事業体として収益を上げる方法を考えたほうがよいと思います。
- ・ 会員増につなげるため、ファシリテーションを扱う他の団体との差別化について考えたほうがよいと思います。
- ・ ファシリテーションの届け方を変えてはどうでしょうか？そこが PR できていないのではないのでしょうか。
- ・ ファシリテーションによる活動を、情報発信をしてほしいです。FAJ の既存の方法以外の、動画配信やブログなどの外部発信をしてほしいです。
- ・ FAJ の外から見て、FAJ がどんなことをしているのか？どんな人がいるのか？がわからないと、参画もしづらく、一緒に何かをしようと思いきいのではないのでしょうか。
- ・ 対外的に FAJ の具体的な活動を具体的かつ外部の人が見たいと思えるように発信することで、協力や参画される方が増えるのではないのでしょうか。
- ・ 会員数について、下降線のシナリオを考え、予算の視点も含め、中期的な検討が必要ではないのでしょうか。
- ・ 外部ファシリテーターの関わりに対するプロセスやアウトカム、フィードバックを会員に共有してほしいです。
- ・ 議事録の遅れについて冒頭にお詫びがあり、意見交換会に関係するメールが当日直前に届きましたが、説明会前に会員が見るには急だったと思います。
- ・ 意見交換会の説明では、災害復興委員会の赤字額が大きくなっているような印象を与えるので、総会での説明内容を再検討ください。
(意見交換会後の補足：支援助言事業全体の支出増加について、意見交換会で説明しました。支援助言事業の支出は、ファシリテーションサポート委員会・災害復興委員会両方の合算であり、両事業は収入も増加しているため、支出の増加=赤字増加ではありません。当日の説明方法を変更します。)

■総会議事資料正誤表

1) P4 13行目 報告：交流・親睦事業

(誤) 宮城県教育委員会との共催支部イベント (東北)

↓

(正) 宮城県教育委員会、仙台市教育委員会の後援を受けた支部イベント (東北)

2) P7 2段目 事業報告詳細 中部支部定例会：4月17日 参加者数

(誤) 従業者数：7 会員：30 一般：0

↓

(正) 従業者数：8 会員：25 一般：34

3) P10 2段目 事業報告詳細 ファシリテーションサポート委員会

(誤) 東京都千代田区 ファシリテーション実践研修 従業者 6、受益者180

↓

(正) 東京都千代田区 ファシリテーション実践研修 従業者 2、受益者17

4) P13, 14, 15 収支報告

支払手数料や受取利息に関する計上で修正すべきところが見つかりました。また、部門名に間違いがありましたので、合わせて訂正いたします。なお、次ページ以降に訂正した箇所を下線にて示しております。

以上

令和4年度「特定非営利活動に係る事業」活動計算書

令和4年4月1日から令和5年3月31日まで

特定非営利活動法人 日本ファッション協会

科 目	金額 (単位:円)		
(資金収支の部)			
I 経常収入の部			
1 会費・入会金収入			
個人会費	10,484,000		
法人会費	0	10,484,000	
2 事業収入			
調査・研究事業収入	1,449,511		
教育・普及事業収入	9,233,500		
支援・助言事業収入	10,434,179		
交流・親睦事業収入	144,550	21,261,740	
3 寄付金収入			
個人寄付金	0		
法人寄付金	0	0	
4 助成金	0	0	
経常収入合計			31,745,740
II 経常支出の部			
1 事業費			
調査・研究事業費	6,172,256		
教育・普及事業費	8,478,252		
支援・助言事業費	5,605,791		
交流・親睦事業費	770,089	21,026,388	
2 管理費			
広報費	55,000		
交通宿泊費	7,062,562		
会議費	556,362		
事務消耗品費	189,014		
通信運搬費	657,172		
諸会費	51,100		
雑費	84,060		
資料印刷費	932,103		
外部委託料	3,501,510		
支払手数料	426,112		
賃借料	1,018,528		
保険料	39,841		
租税公課	245,300	14,818,664	
経常支出合計			35,845,052
経常収支差額			△ 4,099,312
III その他資金収入の部			
その他資金収入合計	5,610	5,610	5,610
IV その他資金支出の部			
その他資金支出合計	0	0	0
当期収支差額			△ 4,093,702
前期繰越収支差額			44,692,086
次期繰越収支差額			40,598,384

令和4年度「特定非営利活動に係る事業」活動予算実績対比表

科目	予算	2022年度計	予算差異	予算比	決算内訳											
					北海道	東北	東京	中部	関西	中国	九州	サロン	その他	公開セミナー	ファンサポ	災害復興
(資金収支の部)																
経常収入の部																
1 会費・入金収入																
個人会費	11,500,000	10,484,000	1,016,000	91.17%												
法人会費	0	0	0													
	11,500,000	10,484,000	1,016,000	91.17%												
2 事業収入																
調査・研究事業収入	1,926,500	1,449,511	476,989	75.24%												
教育・普及事業収入	12,324,000	9,233,500	3,090,500	74.92%												
支援・助言事業収入	5,166,000	10,434,179	-5,268,179	201.98%												
交流・親睦事業収入	2,174,500	144,550	2,029,950	6.65%												
	21,591,000	21,261,740	329,260	98.48%												
3 寄付金収入																
寄付金	0	0	0													
4 助成金等収入																
民間助成金	0	0	0													
	0	0	0													
当期収入合計	33,091,000	31,745,740	1,345,260	95.93%												
I 経常支出の部																
1 事業費																
調査・研究事業費																
会場使用料	3,405,070	2,006,396	1,398,674	58.92%												
事務消耗品費	599,000	277,930	321,070	46.40%												
交通宿泊費	2,343,000	1,748,820	594,180	74.64%												
謝礼等	1,846,000	947,188	898,812	51.31%												
印刷費	184,000	51,417	132,583	27.94%												
会議費	400,000	395,952	4,048	98.99%												
通信運搬費	0	11,373	-11,373													
雑費	867,500	282,100	585,400	32.52%												
外部委託費	130,000	451,080	-321,080	346.98%												
研究開発費	105,000	0	105,000	0.00%												
	9,879,570	6,172,256	3,707,314	62.47%												
教育・普及事業費																
会場使用料	1,752,000	2,007,844	-255,844	114.60%												
事務消耗品費	188,000	249,695	-61,695	132.82%												
交通宿泊費	2,265,000	2,426,987	-161,987	107.15%												
謝礼等	4,232,060	3,145,620	1,086,440	74.33%												
印刷費	406,000	67,366	338,634	16.59%												
会議費	190,000	485,877	-295,877	255.72%												
通信運搬費	0	370	-370													
雑費	98,000	94,493	3,507	96.42%												
研究開発費	0	0	0													
	9,131,060	8,478,252	652,808	92.85%												
支援・助言事業費																
会場使用料	40,000	44,550	-4,550	111.38%												
事務消耗品費	32,000	17,495	14,505	54.67%												
交通宿泊費	2,130,000	2,379,629	-249,629	111.72%												
謝礼等	2,500,000	2,956,959	-456,959													
印刷費	30,000	159,412	-129,412	531.37%												
会議費	3,000	0	3,000	0.00%												
通信運搬費	0	15,190	-15,190													
雑費	238,000	32,556	205,444	13.68%												
	4,973,000	5,605,791	-632,791	112.72%												
交流・親睦事業費																
会場使用料	995,000	219,197	775,803	22.03%												
事務消耗品費	130,000	19,204	110,796	14.77%												
交通宿泊費	1,080,000	134,004	945,996	12.41%												
謝礼等	649,000	111,370	537,630	17.16%												
印刷費	146,000	25,953	120,047	17.78%												
会議費	101,000	5,240	95,760	5.19%												
雑費	304,000	60,421	243,579	19.88%												
外部委託料	163,000	194,700	-31,700	119.45%												
	3,568,000	770,089	2,797,911	21.58%												
事業予備費	2,000,000	0	2,000,000													
事業費計	29,551,630	21,026,388	8,525,242	71.15%												
2 管理費																
広報費	468,000	55,000	413,000	11.75%												
交通宿泊費	6,140,000	7,062,562	-922,562	115.03%												
謝礼等	0	0	0													
会議費	1,010,000	556,362	453,638	55.09%												
事務消耗品費	50,000	189,014	-139,014	378.03%												
通信運搬費	101,000	657,172	-556,172	650.67%												
諸会費	90,000	51,100	38,900	56.78%												
雑費	547,000	84,060	462,940	15.37%												
資料印刷費	675,000	932,103	-257,103	138.09%												
総会関係費用	700,000	0	700,000	0.00%												
外部委託料	3,973,500	3,501,510	471,990	88.12%												
支払手数料	500,000	426,112	73,888	85.22%												
賃料	980,000	1,018,528	-38,528	103.93%												
租税公課	330,000	245,300	84,700	74.33%												
保険料	55,000	39,841	15,159													
予備費	0	0	0													
管理費計	15,619,500	14,818,664	800,836	94.87%												
当期支出合計	45,171,130	35,845,052	9,326,078	79.35%												
I その他資金収入の部																
その他資金収入合計		5,610	-5,610													
その他資金支出合計																
当期収支差額	-12,080,130	-4,093,702	-7,986,428	33.9%												

令和4年度「特定非営利活動に係る事業」会計貸借対照表

令和5年3月31日現在

特定非営利活動法人 日本ファシリテーション協会

科目・摘要	金額（単位：円）		
I 資産の部			
1 流動資産			
現金	0		
普通預金 三菱東京UFJ銀行(経費)	2,332,801		
普通預金 三菱東京UFJ銀行(継続会費)	739,315		
普通預金 三菱東京UFJ銀行(新規会費)	602,660		
普通預金 三井住友銀行	11,357,239		
普通預金 三井住友銀行	6,171,520		
普通預金 三井住友銀行	8,693,567		
普通預金 三井住友銀行	9,096,587		
普通預金 楽天銀行	4,568,906		
前渡金	463,600		
未収入金	560,587		
仮払金	69		
流動資産合計		<u>44,586,851</u>	
2 固定資産			
固定資産合計	0		
減価償却累計額	0		0
3 投資その他の資産			
差入保証金	29,580		
投資その他の資産合計		29,580	
資産合計			<u>44,616,431</u>
II 負債の部			
1 流動負債			
未払金	3,854,611		
預り金	163,436		
流動負債合計		4,018,047	
2 固定負債			
固定負債合計		0	
負債合計			<u>4,018,047</u>
III 正味財産の部			
前期繰越正味財産		44,692,086	
当期正味財産増加額		<u>△ 4,093,702</u>	
正味財産合計			<u>40,598,384</u>
負債及び正味財産合計			<u>44,616,431</u>